

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名：「かつては恐怖の魔王様」

テーマ：「魔王だったのに、人見知りな美少女」

キャラクター

55

ストーリー

50

テーマ(設定)

55

文章力

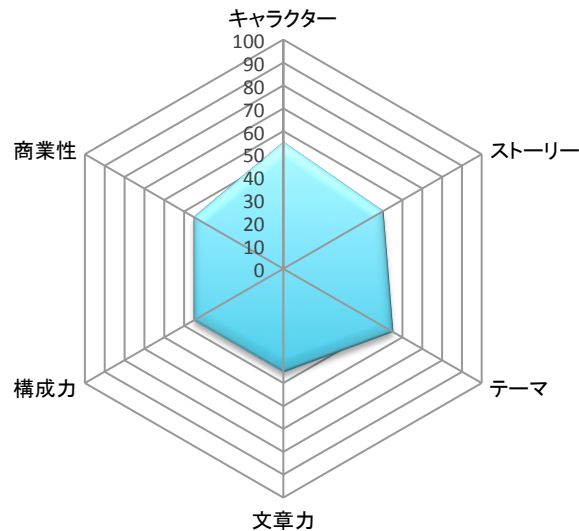
45

構成力

45

商業性

45



・見受けられる基礎的な問題点

- ・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- ・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- ・キャラクターの行動に動機がなく、物語が都合展開になってしまっている
- ・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- ・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がり欠ける
- ・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- ・物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- ・意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- ・プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- ・時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- ・物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- ・文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- ・伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- ・笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- ・「この作品の最大の魅力はこれ!」というものが無い

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

・冒頭での「とりあえずヒロインは何かやばい」感に引き込まれた。黒姫の登場シーンとしては最高の出だしであったように思う。
 ・(根本的な話になってしまうが)そもそも黒姫が本物の元魔王であるという設定にする必要があったかどうかという問題があげられる。元魔王という設定が黒姫の中二病の一貫のように読み進めていたその晩に本物であったと言われても「え?」という印象をどうしても覚えてしまい、かつこの設定を出したことによるメリットをあまり感じない。冒頭が面白く中二病的なギャグ路線で行くと思わせている分、突然あと何百回という贗罪を繰り返すというシリアス展開をもってこれらでも、それは冒頭を通じて読み手が期待している面白さは違うため、正直ギャグ路線で通しきった方がまだ一つの作品になったのではないかと感じてしまう。(例えば黒姫は元魔王だが記憶がなく、しかし主人公は黒姫が元魔王であることを知っている。黒姫がたまたま無意識に魔王レベルのパワーを出しそうなことがあるので、主人公が頑張ってそれを阻止し続ける日常系作品——など?)
 ・単純に黒姫単体の可愛さは作品を通じて最高に引き立てられていると感じる。キャラクター描写については全く文句がない。

合計加点ポイント 0

総得点: 295 / 600

B方式総合得点: 14504 点